

琵琶詩吟名匠録

- 錦琵琶本部 宗家水藤 錦續 176 東京都練馬区旭町三ノ三...

筑前琵琶橋会師範

- 旭柳会 松本 旭柳 461 名古屋市中区東外堀町二ノ...

筑前琵琶橋会事務局

- 常務理事 堀田 旭甲 444 岡崎市福寿町七七...

錦心流琵琶

- 藤川 晴水 330 大宮市桜木町四ノ三...

筑前琵琶橋会師範

- 北村 旭良 680 鳥取市片原四ノ二...



藝の友 琵琶特集 二月号

受章は近世琵琶に比なき名譽である上に、今年二月の香港での出演...

さかり、いで此の上は奉行所へ、直訴するより詮なしと、草案擬り...

無念骨髄幾歳か、堪えて忠節助めども、積る責苦の数々は、遂に...

芸術選奨大臣賞 芸術祭優秀賞と 二年続きの栄誉



一昨年二月には芸術選奨文部大臣賞を受賞された琵琶の各人鶴田...

鶴田師は、四十七年度芸術祭には特別優秀賞に輝く榮誉で、二年続きの恩恵に四十八年の新春を迎え、...

（註）憲法印：通名智専。佐渡畑野村小倉長谷寺の境内末寺...

六月二日朝まだき 無念骨髄幾歳か、堪えて忠節助めども、積る責苦の数々は、遂に...

海外公演に活躍 秋はリサイタル

鶴田師の本年の活躍予定は、二月の香港での初公演と五月のロンドン、フランス兩國での公演が決...

（註）憲法印：通名智専。佐渡畑野村小倉長谷寺の境内末寺...

（註）憲法印：通名智専。佐渡畑野村小倉長谷寺の境内末寺...

（註）憲法印：通名智専。佐渡畑野村小倉長谷寺の境内末寺...

曾我竜城氏作

曾我竜城氏作 新作琵琶歌

曾我竜城氏作 佐渡の義人

曾我竜城氏作 千葉玉山

曾我竜城氏作 六月二日朝まだき

名古屋琵琶友会の 第七回演奏会記念



(写真説明)

名古屋の錦心流琵琶友会(会長奥村憲水氏)では、故三輪純水師七回忌追善を兼ねた秋の演奏会を十一月十二日同市中区大須の中小企業福祉会館にて催し、会員の外一水支部や各方面の協賛の外、鶴東の三大家、大阪より中山鳳水師、地元の名師重鎮松本旭柳師が賛助として特別出席等が人気を呼び、二百人収容定席の会場へ三百名近い聴衆が押しかけ超満員の盛況で、生花や祝花二十数基と近來にない華やかさであった。写真は当日の記念で(前列)向って左より香沼響水、奥村憲水、松本旭柳前田師の姉、前田秋声、中山鳳水輝錦師(二列)水谷浩水、丹野純水、阿部勝水、中西純水、小林残水、神藤敏水、谷津津水、加藤澁水、三輪純水の諸氏と関係者である。

肥後琵琶が保護

熊本県教委で

現代の琵琶界と言えは薩摩琵琶と筑前琵琶とは全国的に知られ流しているが、平家琵琶とか肥後琵琶は愛好者があまり少なく一般には知られていない。今回熊本県教育委員会では県内山鹿の鹿央町で肥後琵琶の保護に愛用されてきた肥後琵琶の保護に就て検討を始めた。肥後琵琶は徳川幕府の中期に熊本藩主細川家が京都より琵琶師を連れて来て元禄以前の古浄瑠璃の語り口を伝えたのに始まり、肥後伝説、軍記物等素朴な味のある物語を伝える。現在は玉名郡南

城山会秋の大会

名流協賛の顔合

名人故吉村岳城先生の門下である城山会は、主任の伊藤岳英師が数年前より交通事故後遺症で病床にあり、室内の歩行も叶わぬ身のため万事休する現状で、軽部五郎師がその面を当っている。従って城山会の公演は年一回位に縮少されたのも止むを得ない。同会秋の演奏会が十一月五日午後品川区上大崎の三州俱樂部で開かれ、軽部師、古老山木岳城、大塚岳俊、新納岳俊の長老組と田村一皓、石山師、宮崎、津和村、吉川、伊藤の各会員、協賛来賓の前田月、大阪杉秀夫、吉成登城、桑名洲聖、宮崎洲香、生田晃堂六名手が出演され真技を揮われたが、この会場は愛好者に馴染みが薄く、特に琵琶と密接の関係にある詩吟の全国大会が、九段の武道館で、宮様の台座を仰いで盛大に行われてる日時と同一になったためか聴客の姿うすかったのは惜しい。山本、杉新納三名手の如く地方より出演の方には満足感を得なかつたでないかと察しられた。

旭嶺師の妙技光る

田中師の大会

大正から昭和初期にレコードで

福岡、邦楽と邦舞会

福岡市の47年度市民芸術祭参加青少年におくる「邦楽と邦舞の会」は、十一月十七日夜市立少年文化会館で開かれ、長唄、箏曲、地唄、筑前琵琶、舞踊が上演されたが、琵琶は合奏「故郷山」で樋口旭清ほか三名、「義士の本懐」で中村旭園師の五人で好評を受けた。

赤穂義士を偲ぶ 札幌の琵琶演奏会

札幌琵琶界の先覚功業者山崎紅水師は、終戦となった昭和二十年より今日まで市民慰安と精神安定のため琵琶奉仕を一筋に続けた文化芸術振興の大功業者で、毎年十二月には赤穂義士を偲んで義士歌を演奏されて来た。去る十二月十七日にも一水会支部の二反田岳水支部長と共催で北神会館で琵琶演奏会を開き、山崎紅水、二反田支部長両首領、天野、室谷、渡辺、広川加藤、小幡、大友、草津、井上の諸氏他十余名が出演。当日多年琵琶に協賛された田井直治、岩本政一、佐藤寿一三氏を表彰された。

名古屋邦楽大会へ 菅沼、水谷氏出演

名古屋市民芸術祭邦楽大会が十一月二十六日市民会館ホールで催され、邦楽各芸が一部、二部共二十四題宛上演された。琵琶出演は三曲で、錦心流水谷浩水、菅沼響水、筑前合奏若見旭香、前田旭城の四人で好評の人気を受けた。

宮崎先生宅の 新年歌始めの集

東京琵琶界の強力な後援者で、琵琶大家のテープ録音名曲収集家、日本一と高名の弁士宮崎直二先生は、恒例の新年歌始めを一月二日午後三時に世田谷区太子堂の自宅に鶴田錦史、大館洲風、鈴木蒼心、石坂頭並に山口速水、友吉鶴心、石坂萬子、平野純水、松崎洲陵、平山万佐子、平山眠水諸氏を招待し、新年賀礼を交し三時四十分より歌初めに入った。

辻靖剛翁所長の 薩摩琵琶古曲 研究所の卒業式

東京の薩摩琵琶界の元老で日本琵琶界協会と正統会の理事長として

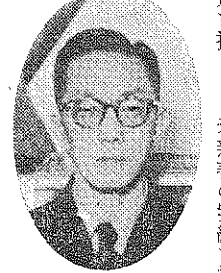
開町小原の山鹿良之老と他三名が いるのみと。鹿央町有志は由緒深い 琵琶の滅亡を憂い、写真や録音 テープにして保護にと検討中。

名流協賛の顔合

身体障害者福祉施設練馬更生園基金に協賛し、渡辺岳吟リサイタルを一月七日正午より四時半まで千代田区内幸町イノホールにて開催された。折悪しく雨であったが先づ岳吟作品集より十数題が上演されてから次に師の吟詠、続いて謡曲入、リサイタル詩吟、コーラス吟、詩舞、立休詩舞で華やかな舞台を見せ、身障者施設更生園基金目録贈呈式、更生園許証授与式が行われた。更に特別出演名手による吟詠、民謡、歌謡曲、吟詠と舞、新曲琵琶、民謡詩吟、都々逸俗曲入、浪曲琵琶等二十番が上演され大人気を呼んで盛況であった。琵琶の出演者は、内山岳俊、若水桜松の両名手で大向を飾らせた。

吟剣詩舞振興会 新春のつどい

財団法人日本吟剣詩舞振興会(会長鶴岡高松宮宮子殿下、基金三億円、会員二百三十万人)は四十七年度は、春の名流大会、夏の吟道大会、秋の全国大会の各行事毎に大会場は超満員の盛況で芸術界最高の権勢を示しているが同会恒例の新年行事である四十八年新春のつどいを一月十三日正午より三時までホテルニューオータニ芙蓉の間にて開催。笹川良一会長の御挨拶、来賓祝辞、功労者表彰、感謝状授与の式典、その他二百名の参加者で新年を寿ぎ同会の隆昌を祝った。詳細は次号へ。



(雨宮師)

赤十字献血基金奉賛 芸道六十周年記念 雨宮国風師 リサイタル

錦心流水琵琶の長老で名人の誉れ高い雨宮国風師は、吟詠国風流を創立し、宗家として国内は勿論遠く海外の米國やカナダに多数の会員を擁し、日米親善の実績を揚げ

今年三大行事

吟詠錦城流宗家山元錦城師は、昨秋一門八十余名と共に訪米親善視察団を組織して成果を取

鶴田師が新春に レコード吹込み

琵琶界の名人鶴田錦史師が、四十七年度芸術祭参加で優秀賞を受賞され、琵琶芸術に対する再認識を深めさせた功績は高く評価されているが、この功績を後継する鶴田師のレコード版吹込みを依頼され、一月九、十日に互り琵琶二曲の吹込みを行なった。

旭錦会の新年会 一月十日日本部で

日本橋会の宗範である名人山元旭錦師は、吟詠錦城流宗家として女流吟界の女王と称えられる權威者となり名実共に斯界の成功者であるが、今年に故郷旭師の七周年忌を迎えるので宗家へ謝意のため琵琶奉仕へと心を定め、久しぶりに旭錦会の演奏会開催も予定されているというが、一月十日には杉並区成田西一丁目本部に於て旭錦会の新年会交礼親祝会を開いて盛大な奉迎を挙げられた。

「まぼろしの星」再放送で鶴田師輝

名人鶴田師輝が昨年の文部省文化庁主催の芸術祭に於て、特別優待賞を受賞された澤尾須磨子作「まぼろしの星」は、一月十一日夜十時十五分NHK・FM(ステレオ)で再放送され其の神技振りを聴取された愛好者は、今更の如く感激し絶讃されている。

橋会全国大会

準備愈々進む

筑前豊前日本橋会の故初代宗家橋本宗師七回忌追善を兼ねた四十八年度全国大会大演奏会は、来る三月四日、東京橋会会となり東京有楽町(宮城前)の第一生命保険会館に於て開催されるが、目下事務局と東京橋会事務局関係者間でその準備を進めている。大体の予想を仄聞すると出演者は山元旭錦山崎旭幸兩宗師を筆頭に、師範級二十名、院号教授十五名、総伝以下二十名程度で、上演曲は独奏二十余曲、合奏十曲が見込まれ選考中である。尚この大会は故宗家の追善のため故師へ感謝意を表して「追憶譜」を新作し、歌を若手女流演奏家に、絃を宗範以下師範級大演奏との二十余名の大会奏で、大舞台を飾り英霊へ捧げたいという意向もあるとか。その他恒例の総会に於ては故宗家没後再建された新生橋会の功労者表彰も舞台上挙行する議が上程されようし、宗家の墓前参拝も取り行われる予定

新春を飾った

名流琵琶会盛況

各流競演で好評

東京新聞社主催、日本琵琶楽協会の協賛の恒例新春舞台はじめの琵琶名流大演奏会は、一月十日午前十一時開演で日本橋三越劇場に於て開催された。寒中には珍らしい温かな快晴に恵まれて聴衆の客足も早く、開演前に客席への入場者百名近い順調で、正午には三百名を算え、午後一時には当日買入の入場者百数十名に及び七百余名収容の大会場は殆んど満員の盛況で、新春の同会場で斯る盛況は近年に無い情景で、出演者もまた関係者も今年斯界の率先を期待して大喜びであった。聴衆中には琵琶の恩人と敬われている大元老の水原枝水師夫妻や、鎌倉の作詞家曾我竜城師、京都四明会の会長平井春嶺氏、彦根旭城会の会長並に都内や近原の琵琶名士多数が早くから姿を見ての声援で、頗る明るく楽しい新春気分を盛り上げていた。演奏はプログラムによる林田旭史(藤巻師門下)の「娘みゆき」を先聲に、宮崎洲香(一前門下)の「静」に筑前、薩派両陣営の花形精鋭の一番乗り手柄争いの巧演で開幕され、三番手は名流組と聞ける錦琵琶の村木板柳さん(須磨の敬盛)、続いて薩派正統の長老巧将池野谷吟曲氏(小松の操)、筑前派の名匠田中旭嶺

研精会春の公演

三月二十四日に

東京琵琶界各派第一線の大家や名流連で組織されている琵琶研精会は、公演毎に好評を博し人気を呼んでいるが、本年度初の演奏会を来る三月二十四日に日本橋三越前の第一証券ホールに於て開催すると。

洲鳳会館完成

大館派琵琶留指の達人で吟詠界の明星と重きをなす山田洲鳳師は、東京新宿区新宿一ノ十四に居住され町内の信望厚い方であるが、昨夏より新築中の四階建住宅が完成され「洲鳳会館」と命名、その御披露を一月十四日午後二時に関係各方面有志を招待し盛大に行われ(詳細次号)。

菊水流の新年会

東京吟舞界に名声高い菅根悠光会長、菊水流宗家永田映流師ご夫妻の菊水流本部では、一月二十七日萬福寺公会堂前の会館に於て新年初吟会を開き、終演後年賀交際の祝宴を張られると。同流昨秋の大会は満員の盛況を見せたので今年度の発展が大きく期待される。

木原綾子さん初放送

名人水原綾子師の琵琶の新人木原綾子さんは、故浜田景陽師晩年の門下であったが、幼少の五六歳よりの琵琶好きで、現在船橋市にある会社の支店長夫人である。今回NHKのオーディションに合格し二月十日午後一時十五分よりの私達の演奏の時間に「五条の橋」の曲を初めて放送されると。

日本琵琶振興会が

新会場で新年初会

鈴木流泉師会長の日本琵琶振興会は、渋谷区千駄ヶ谷の鳩森八幡宮の参集場を会場として一昨秋来毎月例会を開いてきたが、今年からは会場を新宿区新宿の洲鳳会館(山田洲鳳氏経営新築)に変更し一月二十八日の新年初会より使用する事となった。これと同時に会の規約も変更される筈で、従来の参集者随意演奏の形式を改めて推定大会会式とし、会員の表彰や推進、大会等の企画が設けられるなど画期的な方針が盛り込まれると。

前田洲月女史の

洲月会の新年会

名人大館洲月門下にあつて出藍の誉れ高い女流琵琶の名匠前田洲月師は、一月十三日午後三時に杉並区阿佐ヶ谷の料亭「諸川」に於て洲月会の新年弾初会を催し、会員の外関係有志を招待し初春を寿ぐ祝宴を開いて懇親を深め、会員の健闘を激励された。詳細次号

故田辺師へ尽した

中谷襄水師夫妻

床しい人情美談

現一水会本部理事で一水会横浜支部長の中谷襄水師は、戦後暫らく東京池袋西口に住居され、松田静水師門下の逸才と注視されていた。東京の戦後生活は戦禍で家を焼かれたり物資不足で悩む人々が多かった。田辺蘇川、錦波夫妻も六十歳近い身で戦災を受け家を失い、住所を世田谷松原、三軒茶屋と変り難渋して居るのを聞いた中谷氏が池袋の自宅の一室を提供し



(中谷襄水師)

て安住を定めさせ、故蘇川師は此の家で終焉された。中谷氏夫妻が横浜市花咲町に樹入れコップ酒場葉家を開業後も田辺師夫妻は池袋に居られたが蘇川師亡き後数年前迄は錦波夫人の住居であった。中谷氏開業の酒場は、女中なしの男の接客と実質本位の営業が愛酒家の家庭人の安心感と呼んで人気となり、大繁盛も店も拡張また拡張遂に近代鉄骨三階建て結婚披露宴まで引受け大店に成功し、別に自邸や別荘まで持ち、町会長にまで推される紳士となられた。この間経営している叶荘アパートに錦波未亡人を移住させ何くれとなく

で関係当事者は準備に追われてい

新春を飾った

名流琵琶会盛況

各流競演で好評

東京新聞社主催、日本琵琶楽協会の協賛の恒例新春舞台はじめの琵琶名流大演奏会は、一月十日午前十一時開演で日本橋三越劇場に於て開催された。寒中には珍らしい温かな快晴に恵まれて聴衆の客足も早く、開演前に客席への入場者百名近い順調で、正午には三百名を算え、午後一時には当日買入の入場者百数十名に及び七百余名収容の大会場は殆んど満員の盛況で、新春の同会場で斯る盛況は近年に無い情景で、出演者もまた関係者も今年斯界の率先を期待して大喜びであった。聴衆中には琵琶の恩人と敬われている大元老の水原枝水師夫妻や、鎌倉の作詞家曾我竜城師、京都四明会の会長平井春嶺氏、彦根旭城会の会長並に都内や近原の琵琶名士多数が早くから姿を見ての声援で、頗る明るく楽しい新春気分を盛り上げていた。演奏はプログラムによる林田旭史(藤巻師門下)の「娘みゆき」を先聲に、宮崎洲香(一前門下)の「静」に筑前、薩派両陣営の花形精鋭の一番乗り手柄争いの巧演で開幕され、三番手は名流組と聞ける錦琵琶の村木板柳さん(須磨の敬盛)、続いて薩派正統の長老巧将池野谷吟曲氏(小松の操)、筑前派の名匠田中旭嶺

春を迎えられたが、昨秋より老衰のため目黒病院へ入院静養されて居られると。

彦根の林田旭城師

東京出演で大好評

日本橋会では若手女流の第一人者と定評される彦根の名匠林田旭城さんが、一月十日三越劇場で催された新年舞合始めの琵琶名流演奏会へ初出演で「羅生門」を演奏し、美声と研練された節調牙えた絃技は大衆より好評を博し成功された。

広瀬翠江さん出品書

が文化書道展で特選

翠琵琶の名匠で先年コンクールで優勝された広瀬翠江さんは、書道家として多くの門下を指導し、毎年開く文化書道展へ出品、特選の栄を占めているが、昨年十二月の上野美術館での第十一回文化書道展でも特選第一位で入賞された。

是水会の新年会

錦心流の女流大家で当代屈指の名匠である山梨県甲府市居住の速見是水会の新年会は、一月七日市内太田町公民館にて催し、志田錦輝、久保田邦水、山口根水氏等他約十名出席されて年始めの歌い初め新年懇親宴を開いて和やかに健闘を祝し合った。

鈴木実氏が松竹重役

東京琵琶界の強力な推進愛護者で日本琵琶振興会理事長の鈴木実次郎氏の令息実氏は、多年松竹興

行会社に部長として勤務されて居られるが、昨秋の総会で重役に推選され、外国映画部担当重役に昇進されたとはお目出度い。

大野恵造氏著

「漢詩百講」出版

予約申込み受付

国民思想劇場に尽されている漢学者大野恵造先生は、吟詠や琵琶芸術に深い理解を有しその振興のために戦後多くの歌や作詩の小冊誌を刊行し助力されつつあるが今回漢詩の名作品多数を収録して「詩百講」の著書出版される事となり目下準備中で予約申込みを受け付けている。著書は布表紙A5版百五十頁もので頒価九百円。吟詠家や琵琶人に参考書に最適で、是非一読をお薦めしたい。

橘旭翁師の特志

筑前琵琶四世宗家橘旭翁師は、去る十一月二十六日故父三世旭翁師の一週忌法要墓参に当り、旭会長並に役員や会員、知己等より寄せられた厚志に対し、返礼の代りに目の不自由な老人の施設へその一部を寄付された。それは故父が晩年に至り目を病み失明された難事を見て思ひやりから老人への温い気持ちの特志である。

故田辺師の葬儀

蘇川流宗家故田辺蘇川師未亡人錦波女史が、十二月十五日夜掃宅途中交通事故に遭い意識不明の重態のまま病院に運ばれ翌朝六時前



(故田辺師錦波師)

琵琶関係の会葬者は故人の晩年のお世話された中谷襄水師夫妻、小林鶴水、石井榮水、塚野道水、板倉種水、石井楓水、塚原紳水諸氏は事故以来特別にお世話された人々と一水会長小山田賞水、秋美子、竹下翠嶺、鈴木流泉、前田旭嶺、仲川秀邦、鈴木流泉、前田洲月、輝立枝、都錦師、曾我竜城吉成登城、須田綱綱、石田琵琶屋主、横溝璋水、土橋映水、戸谷龍水、出口石水、松田殊水、青木蘇光、青木夫人、鈴木鶴齋、平井洲誠、石井夫人、横浜支部、横須賀支部の会員有志である。法名は「法順院寿楽錦波大姉」敬稱す。

吉水師夫人逝く

薩摩琵琶錦水会二代目宗家吉水錦翁師夫人ツキ女史は、数年前より眼を病んで居られたが、昨秋来院へ入院加療中に心不全を起し十二月三十一日七時二十分遂に永眠された。享年八十二歳。女史は琵琶界に対し深い理解を持つ社交家で、師への内助の功は大きく、この計は真に惜しまれる。葬儀は一月三日名古屋市熱田区新町の長本寺に於て執行された。茲に敬申す

